

文教厚生委員会県外視察報告書

委員氏名 鈴木 好美

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

☆（区長）トップダウン式で子どもに特化した貧困対策の取組みが各課に明確にして（未来につながる足立プロジェクト）貧困対策実施計画から行い、子どもの貧困対策担当部が設置とともに対策本部も立て学識経験者を交えて検討会議等を行う又、各課に対して強い権限を持っていた。

☆貧困対策は教育（学校）だけでなく福祉との連携が必要であり経済的、社会的、健康上の問題など成育環境全般にわたる複合的な課題、解決に取り組んでいた。

☆プロジェクト3本柱で推進し、きめ細かく体制が生まれ、ここまで取組みを行わないと未来を担う子どもや親の支援は出来ないと感じました。

☆スクールソーシャルワーカーの取組みが家庭訪問の中で親子共々明確に対応している。

B【半田市に活かせること】

☆教育、福祉、衛生、子どもの等、様々な分野にまたがる子どもの貧困対策を全庁あげて横断的、総合的に進める為に子どもの貧困対策担当部等を設け全体の進捗管理や事業を本市も必要と考えます。

☆実態把握は足立区の取組みを参考に個人情報のみわどい所まで把握する事が必要と考えます。

☆スクールソーシャルワーカーは中学校区に全て配置する事が必要と考えます。

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

☆さいたま市若者自立支援ルーム事業で（ひきこもり、不登校等、受託団体と連携して就労に向けた必要な支援を強化する為に「若年者職業的自立支援事業」を実施して15歳から39歳を対象としていた。

☆就労支援、学習支援に力を入れているルームと地域若者サポートステーションと連携を取って居場所拠点としていた。

☆小学生に対する学習支援と居場所言う取組みが見えて来なかった、あくまでも「引きこもり、不登校生」などの就労支援に取り組んでいた。

☆学習支援は市が認めた特定「生活保護」等を受けている限定されていた。

☆居場所づくりや就労支援等に学生等有償ボランティアの活動が大きな役割をしている。

☆ハローワーク、教育関係機関等と「さいたま市子ども・若者支援ネットワーク」設置

B【半田市に活かせること】

・学生が大きな役目を果たしている為、本市の福祉大との連携が必要と考えます。

・ハローワーク等連携とありましたが、本市にはクラシティー半田に「NPO法人エンド・ゴール」がありません、市と地域でコラボしての支援しては如何と思います。

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

☆子ども貧困対策の充実の為に学識者、市民等を含む協議会を立ち上げ委員構成も明確に学識者・公募市民・民生・児童委員・小中学校・職員・学生等16名体制で行っていた。

☆作業部会的に庁内連絡会議を設置13課による構成「子ども・福祉・納税課等」

☆これからの体制で有る為、貧困対策など内容は参考になる、又アクションプランを作成が必要

B【半田市に活かせること】

- ・子ども貧困調査等は市が保有する課税データ・生活保護データ等は参考になる。
- ・基本方針だけでなくアクションプランを明確にする事は参考になります。

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

☆NPO法人 Learning for All（全ての人の為に）は、生まれ育った地域や家庭環境に関わらず困難を抱えた全ての子どもたちへの「質の高い」学習支援・機会の提供し様々な支援団体に構成されていた。又、居場所に行ける場所の必要性や来る子どもが安心出来る居場所又、学習支援の場所は信頼関係が必要とされている取組みであった。

☆日本での貧困問題に対する関心の高まり「寄り添う学習支援と中高生の社会的居場所づくり」をテーマに学識経験者や社会教育委員から構成され貧困対策を複数の課が連携し取り組むように提言された。

☆次世代育成支援団体ハーフタイムでは「学校」でも「家」でもなく「第3の居場所」事業で寄り添う大人と居場所がある事で安心感や生きる気力「自己肯定感」ややりたい事、夢を見つける力などの取組みや家庭訪問事業で学生に訪問に来て頂き勉強して頂く学習支援などを行っている。

☆教育委員会において社会教育、生涯学習の立場から、子どもたちが生きづらさを乗り越えて行く為の様々な実践に関わり学びあう関係の取組みを行っていた。

B【半田市に活かせること】

☆学識経験者や教育委員等の構成された貧困対策協議会などが必要と考えます。

☆学生ボランティアなどの支援が必要と考えます。

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

- ・
- ・

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

☆実態把握は足立区の取組みを参考に個人情報のきわどい所まで把握する事が必要と考え子どもの言い方は別として（貧困対策担当部）等を設け全体の進捗管理や事業を本市も必要と考えます。

☆スクールソーシャルワーカーは中学校区に全て配置する事で市・NPO・地域情報共有の為に必要と考えます。

☆学生が大きな役目を果たしている為、本市の福祉大との連携が必要と考えます。

☆ハローワーク等連携とありましたが、本市にはクラシティー半田に「NPO法人エンド・ゴール」があります、市と地域でコラボしての支援しては如何と思います。

☆

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

☆未来を担う子どもたちが生活環境、社会環境で貧困にならない複雑な背景と課題がある為、全課横断的な視点で取組みが必要です。特に教育の観点からの取組みが必要と考えます。

☆貧困対策実調査を行う事。

「研修のまとめ」

① 半田市が把握しきれない貧困、今後貧困になりうる子どもを如何に見つけるか実態把握

「課題解決」・経済的な貧困だけでなく、社会的な繋がりがない子も対象とすべし

- ・どんな子か？「生きる力」のない子ども
- ・現状把握の方法として、学校が中心となり地域、行政との連携が必要ではないか

② ①で見つけた子どもに「生きる力」を見つけてもらう為にはどうしたらよいか

「課題解決」・社会との関わりを持つ機会（場所）が必要ではないか

- ・地域との関わり（家庭以外の大人との関わり）
- ・学校、行政、地域等との連携が必要となる。

③ 学校を軸として取り組む事の効果は？その為の方法は？

「課題解決」・学校に福祉部門（人）を置くべきではないか。{行政、地域との連携の軸となる。

- ・ ex、スクールソーシャルワーカー

④ 行政（執行部門）への働きかける。上記の取組みを推進する為の方策として。

「課題解決」・基本方針、基本計画、宣言などの策定も視野に入れて行く

※ 提出期限：1月19日（木）

文教厚生委員会県外視察報告書

委員氏名 榊原伸行

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・未来へつなぐあだちプロジェクト（平成 27～31 年度）足立区子どもの貧困対策実施計画の策定
- ①子どもの健康、生活実態調査結果（保護者に相談相手がいることが、大切など）を早急に施策反映→小学一年生を対象にし翌二年生時に於いても継続して対象
- ②政策経営部内に子どもの貧困対策担当課-それぞれ所管する部署の予算で事業計画などまとめ上げる
- ③現在の福祉施策は、救貧であり予防、発生、抑制し連鎖を断つ施策が、重要である
- ④スクールソーシャルワーカーを中学校区に 1 名配置し地域との連携のため段階的に育て働きやすい環境づくりと養護教諭との連携しチーム体制づくりをし学校の受け入れ体制の充実
- ⑤子どもの居場所づくりは、小学校区に 1 施設（児童館、公民館など）あり居場所を兼ねた学習支援をし子ども食堂は、10ヶ所あり子どもたちとの信頼関係を築くため永く継続するため行政は、後方支援をする
- ⑥キャッチした情報を相互につなぐ「つなぐシート」を活用し子どもの貧困対策への職員の意識改革をする

B【半田市に活かせること】

- ・半田市の現状把握と対策づくりのため子どもの貧困に関する指標設定をし子どもの健康・生活実態調査をする。

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・勤労意欲があり自ら求職活動を行える若者、ひきこもり、ニート、フリーターなど若年無業者（15 歳から 39 歳）が、就労に伴い安心・安定した生活を得るための自立生活支援や就労支援を行うことが最重要課題と位置づけている。生活保護者から脱皮し税金を収める就労者になるよう未来投資、サポートしている。
- ・さいたま市若者自立支援ルーム事業は、中高生～30 歳代までの子ども・若者を対象。理由は、小学生を中心とする施策が中心であり中学生以降の青少年をターゲットにした支援が少ない。また中学生以上としているのは、義務教育の段階から支援機関が連携することで、中学を卒業しても居場所へと支援が途切れないよう繋ぐため。
- ・さいたま市若者自立支援ルーム事業を運営するためさいたま市生活困窮者学習支援教室、さいたま市若者自立支援ルーム、地域若者サポートステーションさいたまなど民間事業者に委託し NPO 法人さいたまユースサポートネットを設立
- ・さいたま市子ども・若者支援ネットワークの設置

B【半田市に活かせること】

- ・居場所のない子ども、若者たちの支援ネットワークづくりと居場所づくり

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・子どもの貧困対策協議会の立ち上げし 28 年度中に基本方針を策定する。
- ・市内 13 課による構成する作業部会的に市内連絡会の設置
- ・子ども（小学校 5 年生、中学校 2 年生、高校 2 年生を対象）の生活実態調査を実施。定期的なアンケートにするか追跡アンケートにするかは、検討中
- ・子どもの相対的貧困率の調査
- ・川上（貧困に陥ってる世帯を含めた全世帯への支援。貧困に陥る可能性のある家庭への貧困防止につながる）、川下（生活困窮者等の現在貧困に陥ってる世帯に対する支援）、子どもの支援、保護者への支援を支援施策事業を分布図でまとめる。
- ・子どもの貧困対策議員連盟から政策提言
- ・スクールソーシャルワーカーは、4 名配置し固定型である。
- ・福祉の初期相談窓口 セーフティーネットコールセンターの設置

B【半田市に活かせること】

- ・支援施策事業を分布図でまとめる。
- ・自立支援係、セーフティーネット係、ひとり親相談係など一カ所で相談できる福祉の初期相談窓口の設置

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・子どもの貧困は、見えにくい。衣食住の不自由だけでなく関係性の貧困や文化的貧困もあり複合的な貧困が、問題
- ・学校と NPO など支援団体との連携と信頼関係が、必要不可欠
- ・NPO など支援団体は、財政上の課題を抱えており公費による裏付けが、必要
- ・社会教育委員の研究、協議の充実（寄り添う学習支援と中高生の社会的居場所づくり）

<行政>

- ・児童館は、地域型、基幹型、中高生対応型があり、中高生対応型は、2ヶ所。午後 8 時まで開館しており他館より 2 時間長い。→居場所づくり
- ・子育て支援部に子どもの貧困対策を担当する新組織の整備し、平成 31 年から五カ年計画で子ども・若者計画を策定
- ・小学校全校で学童保育クラブとワクワクチャレンジ広場と一体型の居場所づくり

<NPO>

①次世代育成支援団体ハーフタイムは

- ・貧困、虐待、いじめ、不登校、引きこもり、障害、非行などさまざまないきづらさを抱えた子どもたちに寄り添う支援団体であり居場所づくり事業（学校でも家でもない第三の居場所）、寺子屋クラブ（学習支援）、生活訓練事業、家庭訪問事業、家庭料理教室など LFA との連携やボランティア学生を活用し支援
- ・校長・養護教諭、母子生活支援施設、ssw.sc、福祉事務所、民生・児童委員、保護者で組織

②NPO 法人 LFA(Learning For All)

- ・困難を抱かえる子どもに対して質の高い学習機会を提供し、課題に直接向き合った経験を通して、社会課題を解決する大学生を育成・輩出する団体
- ・ハーフタイムと協働しながら低所得世帯の小中学生から中学生までを対象に寺子屋クラブとして

学習支援をしている。

- ・実践を支える例えば ssw など待遇向上を図らないと学生が、育たない
- ・個別対応も必要だが、子どもたちにとって安心できる居場所は信頼できる相手がいてくれる、何時でも行ける環境づくりが、必要

B【半田市に活かせること】

- ・ ssw の待遇向上
- ・ 大学生と連携し学習支援など居場所づくり

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見(視察レポート)を参考に「委員の意見」として報告に載せたものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

- ・現在の福祉施策は、救貧であり予防・発生・抑制に重点を置き貧困の連鎖を断つ施策が必要
- ・ ssw の配置人数の充実と地域連携のため段階的に育て働きやすい環境づくり。養護教諭と連携しチームとして対応
- ・つなぐシートの活用

【提言】（上記記載 B「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

- ・現状把握と対策のため子どもの健康・生活実態調査をし仮称 子どもの貧困対策協議会を立ち上げる
- ・居場所づくりの構築と支援できる NPO など調査しネットワークづくりをする
- ・現在の支援施策事業の体系的分布図づくりをしどの事業を充実させるか検討する
- ・日本福祉大学の学生が、子どもの貧困対策についてどのように関連性（NPO など）を持っているか調査しさらには、協議する

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

- ・社会教育委員の会議と研究の充実

※ 提出期限：1月19日（木）

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

・ 刑法犯認知件数ワースト1位。小中学力テスト低位、生活保護が多いなど区の負のイメージ脱却に、なみなみならない悲壮感で平成27年度を「子どもの貧困対策元年」と位置付け、「足立区子どもの貧困対策実施計画～未来へつなぐあだちプロジェクト～」を策定。「子どもの貧困対策本部」を設置して、貧困の連鎖を断つ取り組みを開始した。これには、トップの姿勢が色濃く反映している。区長が本部長。

・ 「子どもの貧困対策本部」は予算をまったくもっていない。しかし、全庁的に横断して事業をすすめるために、「子どもの貧困対策担当部」を設置し、対策本部を再編した。市長の意向を受けての実力のある職員を担当部長に配置していた。

・ 「特効薬はない。長期のスパンで」「国は国の役割。自治体は自治体で目出しを」が印象的。

・ 学校を「プラットフォーム」に位置付け、学力・相談・連携・居場所に。

子どもの貧困に関する24の指標を作成。

・ 元気な高齢者のサロンを子どもの居場所としての併設を考えていた。

B【半田市に活かせること】

・ 横断的な支援体制。

・ 「子どもの生活実態調査」（貧困調査ではない）を実施。区立小学校1年生全員5355人。

h27, 7月と11月。69校。→半田市でもできるのでは？

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

・ 「地域若者サポートステーションさいたま」（サポステ）、「さいたま市若者自立支援ルーム」（ルーム）も幅の広い対象で実施。保護者もサポートしていた。

・ 市長のマニフェスト。青砥氏などの人材で厚生労働省から受託しての事業。寄付の応援も手厚い。

B【半田市に活かせること】

・ ・ こどもだけでなく15歳から39歳まで対象にしている。15%が不登校。一人親8割。

20歳代が60%。ニート、フリーター、障害手帳のないグレーの若者・・・も対象とした、幅の広い支援対象。

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・大坪市長「個別にバラバラに対応するのではなく、実態調査を行って総合的に貧困対策を」とのトップのイニシアで「日野市子どもの貧困対策協議会」を立ち上げていた。作業部会として「庁内連絡会」設置。13課で構成。
- ・「セーフティネットコールセンター」という課。(セーフティネット係5人、自立支援6人、一人親相談係4人)。「どこに相談したらよいかわからない」に対し、ワンストップサービス。「一人親」の課も同じ課に入っていた。
- ・生活保護になる前に手を打つ。「相談に来る人は、もう直前の人。その前に」。課題は総合的につながっている。ライフライン料金の滞納など、納税相談から・・・が印象的。
- ・高校生までを対象にしていた。
- ・保護者の支援も「川上」に例えて支援。
- ・「特効薬はない」「連鎖の断ち切りは世代を超えて見てゆくしかない」と力説。
- ・市単独で相対的貧困率の算出。(課税・生活保護データ等で)、首都大学阿部彩教授。沖縄の手法を順用して。近日中に数値でる予定。
- ・「子どもの貧困対策議員連盟」から31項目の政策提言。

B【半田市に活かせること】

- ・横断的な庁内体制。
- ・半田市も独自の調査ができるのではないか。

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・「Learning for All」(LFA)と「ハーフタイム」が行政が手が届かないところに届く支援。
- ・「子ども応援課」をつくって、「全庁の要、司令塔に」
- ・「貧困対策はできるところから始める必要がある」
- ・「教育部局から提言「寄り添う学習支援と中高生の社会的居場所づくり～子どもの生きづらさを乗り越えて～」と提言。「葛飾区社会教育委員の会議」(2年任期)第10期目。「はじめたら現場の人たちが追い越して行った」現状とのマッチングあった。

B【半田市に活かせること】

- ・横断的・全庁的な担当が必要。

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

- ・生活保護になる前に手を打つ。「相談に来る人は、もう直前の人。その前に」。課題は総合的につながっている。ライフライン料金の滞納など、納税相談から・・・全庁的な職員の認識が必要。
- ・さらに親を含め世代を超えた対策が必要。
- ・「貧困対策はできるところから始める必要がある」「長期のスパンがいる」すぐに対策を講じる必要がある事業と、長期に時間がかかっても実施しなければならないことを分けて実施。

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

- ・実態の把握調査を。
- ・トップの姿勢が大事。
- ・横断的・全庁的な担当が必要。
- ・

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

※ 提出期限：1月19日（木）

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- 子どもの貧困対策は、未来につなぐあだちプロジェクトと名付けられた子ども貧困対策実施計画をたて対応を図っていた。計画推進するには全庁的な、政策経営部に子どもの貧困対策担当部を置いていた。担当部は事業を進める予算は持たず、政策推進にかかわる複数の部に対し総合計画を推進させる権限を持っていた。部長1名、課長2名、係長2名の体制であった。実施計画が掲げる課題のひとつに治安があり、貧困対策が治安改善に繋がるとの視点が盛り込まれているところが特徴的であった。
- 対策の指標に、小中学校の不登校児童生徒数、区内都立高校中途退学者数、早期主産の子どもの割合、未処置のむし歯がある子どもの割合など、独自の視点を貧困に繋がる要因を把握していた。実施計画に盛り込まれた施策は、教育学び・健康生活・推進体制の構築の3つの柱で構成し、総事業費は91億円でその内一般財源が73.6億円占めていた。
- 3柱の内容にも多くの対策が盛り込まれていたが、子どもの貧困対策と云った視点ではなく、子どもの未来を作る応援であるという意識が必要だと感じた。

B【半田市に活かせること】

- 足立区が把握していた貧困に繋がる要因の把握は、半田市に於いても同様の手法で実態把握に努めるべき。
- 貧困対策は、庁内横断的な取組みが必要な課題。足立区のように対策推進担当を設置し責任と権限を明確にし、横断的な連携を図る手法を取り入れるべき。

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- NPO法人さいたまユースサポートネットは、さいたま市から受託し若者自立支援ルームの運営を行っていた。その運営の考え方は、“他者に共感する力を育てる事により、子どもの無力感を効力感に変えるというものであった。子どもの貧困対策は、経済的な援助ではない。貧困の連鎖を断ち切るためには、心の支援が大切であることを学ぶことができた。また多くの学生がボランティアで参加していた。
- さいたま市では、この若者自立支援ルームと学習支援教室や就労支援を行っている地域若者サポートステーションとの連携を図っていた。この連携を通して、子どもたちが就職し進学していた。

B【半田市に活かせること】

- 貧困が連鎖しないよう、子どもの居場所で心の支援を図っていた。子どもの自立を促すには、人と人の繋がりを大切する必要がある。

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- 子どもの貧困対策に関して、28年度中に方針決定するための協議会を立ち上げていた。
- 貧困予防段階から救済対策まで、教育支援・生活支援・就労支援・経済的支援の策定に取り組んでいた。
- 取組みの初期段階であり、経済的な支援が主体であるとの印象を受けた。

B【半田市に活かせること】

- 市が保有する課税データ、生活保護データなどを用い、日野市の相対的貧困率を算出しようとのことであった。半田市に於いても実施できる。

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- 教員会に学識経験者など専門的知見を持った社会教育委員からなる会議体を持ち、課題に対して提言する取り組みを過去20年に亘って取り組んできていた。今回10期目の課題が、“寄り添う学習支援と中高生の社会的居場所づくり”で、昨年6月に子どもの貧困対策を複数の行政部局が連携して取り組むよう求める提言を行ったところであった。
- 子どもの貧困対策を横断的に行うために、子ども応援課の設置を計画していた。子育て支援ではなく、子どもの未来づくりの応援であるとの意図を感じた。
- 次世代育成支援団体ハーフタイムは、学生との連携で学習支援や居場所事業を展開していた。安心できる居場所を提供し、顔の見える繋がりから子ども達の生きづらさを支えようとするもので、関連するきめ細かな事業を行っていた。
- NPO法人 Learning for All は、困難を抱える子どもに学習機会を提供する活動を行っていた。
- 他にも、質の高い様々な子ども支援団体が活動を行っていた。

B【半田市に活かせること】

- 子どもの貧困対策は、子どもの未来づくりの応援として行うべき。そのために、何が不足しているか、どの様な活動を行っていけば有効かを知るための実態調査を実施して頂きたい。小中学校の不登校児童生徒数、区内都立高校中途退学者数、早期主産の子どもの割合、未処置のむし歯がある子どもの割合など視点で、貧困によってどの様な実態を作りだしているかに目を向けるようにして頂きたい。また、市が保有する課税データ、生活保護データなどを用いることも、その手法の一つとして頂きたい。

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

実態把握について

- ・子どもの貧困対策は、子どもの未来づくりの応援として行うべき。そのために、何が不足しているか、どの様な活動を行っていけば有効かを知るための実態調査を実施して頂きたい。小中学校の不登校児童生徒数、区内都立高校中途退学者数、早期主産の子どもの割合、未処置のむし歯がある子どもの割合など視点で、貧困によってどの様な実態を作りだしているかに目を向けるようにして頂きたい。また、市が保有する課税データ、生活保護データなどを用いることも、その手法の一つとして頂きたい。

対策協議会の立ち上げについて

- ・調査結果に基づいて求められている対策を分析し、有効な手法で解決に導くための有識者で構成する対策協議会を立ち上げて頂きたい。その結果によっては、その後の対策推進を盛り込んだ実施計画の策定まで踏み込んで頂けるようお願いしたい。

支援体制づくりについて

- ・貧困の状況にある子に気付き繋げる支援体制づくりが重要で、その一環として中学校区に一名のスクールソーシャルワーカーを配置する様にお願いします。また、支援を繋げる受け皿は大変重要で、児童センターに於いても受け皿となり得るよう、共通の認識を持った体制づくりを求めます。この他には、さいたま市の NPO 法人さいたまユースサポートネットや葛飾区の次世代育成支援団体ハーフタイムの様な活動が実践できる環境整備が必要です。そのためにも対策の推進を図る担当部署の設置が必要だと考えます。

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

※ 提出期限：1月19日（木）

文教厚生委員会県外視察報告書

委員氏名 岩田玲子

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・平成27年に子供の貧困対策部が発足し貧困対策部長はじめ、実質4人態勢で動いていた。
- ・貧困になる前の予防と貧困になった後の救済を分けて考えており、予防に力を注いでいるところが素晴らしかった。
- ・貧困の分析を行うために、子供の健康・生活実態調査が行われており、追跡調査も行っているところからの事業展開を行っていた。
- ・足立区子どもの貧困対策実施計画は素晴らしかった。特に、貧困に関する24の指標では、あらゆる分野の調査のデータを基にしていた。これは、貧困の原因が多岐に渡るため、部局を超えて連携しており、貧困に対して、敏感に意識づけがされていた。
- ・基本理念、取り組み姿勢、プロジェクトの3本柱などの戦略的、かつ地道な活動が、少しずつ効果をあげていた。
- ・既存事業の中に少し意識啓発するだけで予防に繋がる、(予算はかからない)という発想を持っていた。
- ・居場所づくりを学校としていた。

B【半田市に活かせること】

- ・貧困に対しての予防ができる。沢山の分野にまたがる事なので、各課に働きかけて、予防できる事をする。
- ・子供の生活実態調査を行う。半田市の現状を把握してはどうか。見えてきた現状を分析し、施策とできないか。
- ・理念を持つ。基本理念の基に、貧困施策を行うことが望ましい。
- ・居場所づくりを考えると、学校内も検討すべき。

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・幼児期の語彙が少ないことや、学歴、父親の職業によって格差が出ているというデータが印象的だった。その格差をどう埋めるのか、について調査研究、取り組みが行われていた。
- ・救済をメインに施策が行われている。
- ・学習支援が、進学、就職まで保証する、という取り組みは素晴らしい。
- ・高校生の時期まで重要ととらえ、中学から高校卒業までの6年間に及ぶ学習支援が継続されていた。
- ・無力感を効力感へ変える、意欲を引き出す取り組みとして、地元の祭りに参加するなど、大人との交流やイベントを通じた活動が積極的に行われていた。
- ・居場所づくりに力を入れており、その後の就職支援とも連携がとれていた。

B【半田市に活かせること】

- ・継続的な居場所づくり。
- ・継続的な学習支援。
- ・信頼できる大人を見せる、そのような取り組みの必要性。

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・セーフティネットコールセンターが機能し、27年度相談件数5400件。
- ・日野市子どもの貧困対策協議会が立ち上がり、基本方針の素案を策定中。
- ・生活実態調査の実施により、課題をみつけて施策に盛り込む。
- ・貧困対策を川上、川下と例えて川上は防止の施策、川下は支援としている。

B【半田市に活かせること】

- ・貧困施策に取り組む姿勢。

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・チャレンジ検定などによる達成感づくりや、親がさせられない体験をさせることが大切だという。
- ・学習支援の委託化(本格的な学習支援を全国展開しているNPOとの連携による)

B【半田市に活かせること】

- ・貧困の子どもたちに足りないものは達成感や体験ととらえ、事業を展開する。

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

- ・ 貧困対策は、予防と救済の 2 つに分けて考えるべき。
- ・ 原因が複合的要因によるものであり、予防も多岐の分野に渡ることから、部局を超えた連携は必須であり、貧困に特化してまとめられる人材も必要となる。
- ・ NPO などの民間の力を借りて、より連携していく。
- ・ 居場所づくりが必要となる。
- ・ 継続的な学習支援の必要性。

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

- ・ 継続的な居場所づくりを行うべき。
- ・ 半田市は NPO など民間の力を借りて、連携するべき。
- ・ 部局を超えて連携を図り、貧困について庁内全体で意識して取り組むべき。
- ・ 継続的な学習支援をすべき。
- ・ 理念があるべき。

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

- ・ 予防は既存事業でお金をかけなくてもできるため、関連事業を精査し、意識づけすべき。

※ 提出期限：1月19日（木）

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

○福祉政策の推進体制

- ・スタートに子どもに対する政策の充実を目指す姿勢あり。市長の肝いり。
- ・政策の推進のために、施策を調整する司令塔（子どもの貧困対策部）＝調整役がある。
- ・既存事業すべての目的に、子どもの貧困対策を位置付けているようなもの。

以上の例から、子どもの貧困対策だけではなく、福祉政策を推進する組織体制として、非常に参考になった。

○学校の役割

- ・学校をプラットフォームと位置付け、情報の吸い上げを行っている。
- ・特別事業のやり方について、学力の遅れを当事者に気にさせないように、クラス運営でカバーしているとのこと。非常に前向きな対応方法と感じた。

B【半田市に活かせること】

- ・福祉政策の推進体制として、調整役を置くこと。
- ・学校の協力を、今以上に得ること。ただし、体制・資金面について、市が整える必要あり。

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

○居場所づくり

- ・スタートは児童センターの中高生版

行政の制度にはない部分を民間が補う好例と感じた。

○居場所と就労対策の連携

信頼関係の構築など、効果が大きくなる連携と思う。

○地域との連携

貧困を、社会経験の貧困と捉えているので、当然の発想・

○仮にこのような場所ができたとして、難しい年ごろの中高生が本当に来るのか？どうやって来てもらうのか。より深く知りたい。

○NPOは、子どもの貧困対策は将来への投資であるという認識

B【半田市に活かせること】

- ・中高生対象の居場所づくりはかなり有効だとは思いますが、はたしてそれを行う人材がいるか？育てる？
- ・貧困対策への動機づけが参考になる。将来への投資である。

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

○政策の推進体制

- ・多岐にわたる事業に対応するため、支援施策分布図を作成している。
- ・様々な事業（既存事業含む）が、貧困対策につながると考えて統制していこうとしている。

足立区同様に、政策の推進体制として、参考になった。

○子どもの貧困対策は将来への投資であるという認識

B【半田市に活かせること】

- ・政策を推進する意識。すべての事業が子どもの貧困対策につながる。
- ・子どもの貧困対策を行政が行うことの動機づけとして、将来への投資であることをあらためて確認できた。

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

○子どもたちと支援する側の信頼関係

- ・NPOの方の意見

最低でも1年、できれば3年同じ人間が関われる環境を作ることが望ましい。支援する人間一人ひとりが居場所であることが望ましい。

この意見は非常に参考になった。居場所として、何が大切であるか教えられた気がする。

スクールソーシャルワーカーを闇雲に導入しても、効果が薄いのではないか。

○NPOに対する行政の支援

上記の意見をふまえ、継続性が非常に大事。継続しやすいような支援があれば、NPO側も計画を立てやすいなど効果を発揮できる可能性が高くなる。

B【半田市に活かせること】

- ・民間との連携・・・くらい。

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

下記 B のこと全て

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

（1）福祉政策の推進体制の構築

予算はいらない。新規事業もそんなにいない。一つの目標に向かって、庁内をコントロールできる組織体制の構築

（2）学校との連携

①小中学校で子どもたちの孤立をキャッチアップする組織体制、意識改革の実行。

そのための支援を講ずる。（予算、人）

②貧困を気にさせないクラス運営を行う。

学習支援や、子ども食堂にしても、効果が上がる。

（3）・中高生の社会からの孤立を防ぐ施策

中高生の居場所・学習支援の場を作る施策を立案

（A）（2）（3）で大切なこととして、箱物、形だけ整えても効果が薄い。支援する側、一人一人が子どもたちの居場所になるという意識付けを盛り込んでいく。

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

なし

※ 提出期限：1月19日（木）

文教厚生委員会県外視察報告書

委員氏名 渡邊 昭司

1 足立区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・「子どもの貧困対策課（政策経済部部長兼務）」が設置され、子どもの貧困対策を将来に関わる切実な問題点としている
- ・職員体制の構築と意識改革（全課、全職員が貧困対策を意識するように指導している）
- ・現状調査で問題点の把握（人口推計、生活保護受給者、児童扶養手当受給者、就学援助率の推移、全国学力・学習状況調査、区内都立高校途中退学者推移、歯科検診）
- ・予防と連鎖を断つことに重点を置き、基礎学力が定着するような、事業を行っている

B【半田市に活かせること】

- ・市全体が貧困対策に取り組む体制作り（専属職員→担当課）
- ・現状調査の実施、現在行われている子どもの調査で貧困に関わることがないか再確認

2 さいたま市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・中学校以降の支援が少ない中、「たまり場（社会性・生きる意欲を見出す場）」→「生活困窮者世帯の学習（学び直し）支援（学習上の悩み解決）」→「地域若者サポートステーション（居場所のない若者・中高生～30代の居場所作り）」「さいたま市若者自立支援ルーム（就労に対する歩み）」各体制が構築されている（委託事業）
- ・行政の補助が充実している（補助金、職員の増員、会場の貸出）
- ・多額の寄付金がある 何故？

B【半田市に活かせること】

- ・半田市の現状調査をし、問題点を整理した中での補助金制度や、拠点作りのサポート

3 日野市

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・セーフティネットコールセンター（福祉初期総合窓口）の設置
- ・子どもの貧困対策協議会の立上げ（H27、市長立上げ発案）
- ・市独自の貧困率の調査（課税、生活保護データ等を用いて算出）算出方法→首都大学教授阿部彩氏に委託
- ・庁内外の資源量を把握する為、庁内各課調査・ヒヤリング、庁外はNPO等に調査・ヒヤリング
- ・こども支援、保護者支援を教育支援・生活支援・就労支援・経済支援の分野に分けて、支援内容を決める

B【半田市に活かせること】

- ・市独自調査の実施
- ・庁内外の資源調査の実施

4 葛飾区

A【感想・意見等自由にご記入ください】

- ・提言書が教育部から出された背景と根拠
- ・NPOハーフタイム「(学校でも家でもない第三の居場所)」の活動（居場所づくり・生活訓練・家庭訪問） *行政的に会場提供はしている、助成金は少額で使用用途が厳しい
- ・NPO法人LFAとの協力体制（学習支援・学習サポート）
- ・学校内の施設利用など教育部の協力体制が整っている
- ・大学、地域との連携している
- ・学習支援への補助金4600万円

B【半田市に活かせること】

- ・子ども貧困対策を課題とした協議会の設置
- ・大学との連携強化
- ・地域連携（有償ボランティア）

委員会報告（視察レポートを基に、委員会報告に載せたい・載せるべき意見や提言を記入）

【委員の意見】（上記記載 A の意見（視察レポート）を参考に「委員の意見」として報告に載せたいものを簡潔に記入する。箇条書きで記入）

- ・子ども貧困対策を専門で担当する職員の育成、将来的には課が作れば
- ・教育委員会と教育部の協力体制
- ・市独自調査の実施（既存データでも可能では）
- ・NPO 法人、NPO、大学、地域との連携、運営体制が整っていなければ補助金を出しても無駄になる *最も難しいかも
- ・体制が整った上で、「学習支援・就労支援など」半田市の現状で効果的な事業を行う

【提言】（上記記載 B 「半田市に活かせること」を参考に、報告に載せたい・載せるべき提言を箇条書きで記入）

- ・委員会で協議させて下さい

【その他】（記入欄以外で何かありましたら、自由にご記入ください）

※ 提出期限：1月19日（木）